

功績概要

【芸術文化分野】 林 克次 78歳 陶芸家

同人は、昭和18年1月に陶芸家の林紫光氏(国指定伝統工芸士)の次男として、三重県四日市市に生まれる。伝統的な技法を尊重しつつも新たな技法、革新的な技法の作陶に挑戦し、とりわけ、タタラ技法(薄い陶土を広げ、折り曲げ、形づくり、陶芸作品に仕上げる技法)に独自の世界を開拓し、本県の陶芸文化の知名度向上に大きく貢献している。

昭和47年に朝日陶芸展特別賞、昭和58年に三重県文化奨励賞、平成6年に三銀ふるさと三重文化賞、令和元年に三重県文化賞文化大賞を受賞するなど数多くの受賞歴を有するとともに、氏の作品は光村図書発刊の中学生用美術教科書に掲載されるなど、高く評価されている。

県内の陶芸作家有志が集う「三重県陶芸作家協会(後、三重県陶芸協会に改名)」の設立に寄与し、平成12年からは会長として後継者の育成と人材発掘に尽力した。さらに、平成10年に三重県いなべ市に開窯し地元地域の住民と協働して陶芸と伝統芸能の融合によるイベントを開催し、毎回多くの観客が訪れるなど文化発信による地域おこしに貢献している。

こうした氏の永きにわたる活動の中で、本県における陶芸文化の振興発展に果たしてきた功績は極めて大きい。

【芸術文化分野】 大川 吉崇 80歳 郷土文化研究者

同人は、大正時代から昭和初期の本県の食文化に関する調査を昭和44年以来50年以上にわたり実施し、これを論文としてまとめ、全国の民俗学系学科開設の大学及び博物館、民俗学研究会等に20年間配布し続けてきた。昭和50年に三重県内の食文化をまとめた『三重県と食べもの』を発刊、その後、自身の論文をまとめた『三重県の食生活と食文化』そして生涯に亘る調査をまとめた『三重県食文化事典』等、数多くの書籍を執筆し、全国の学者や研究者の基礎資料となるべく普及も評価に値する。

また、県内には「みえ食文化研究会」運営委員長、「三重ブランド認定委員会」委員や「みえ食の産業振興ビジョン検討委員会」委員長を歴任し、三重県の食文化の普及に貢献してきた。

さらに、地域で活躍する技術者の養成には郷土教育は欠かせないと考え、郷土の食文化を通して三重県の風土や文化全般、歴史に関する授業を三重大学で19年間、三重看護専門学校で10年間、三重調理専門学校及び三重介護福祉専門学校においても大川学園就任以来授業を担当し、郷土を愛する人材の養成に尽力してきた。

その他にも、大人が三重県の歴史や文化を知らずして、子どもたちへの郷土教育は成しえないと考え、高齢者を対象に平成16年度から地元の老人福祉センターにおいて、毎年8回シリーズの郷土文化に関する講座を主催するなど、様々な世代における人材養成に貢献している。

これらの功績により令和2年には三重県文化賞文化大賞を受賞した。

氏の永きにわたる活動において、本県における郷土文化の振興発展に果たしてきた功績は極めて大きい。